

コラム **わが町大石田** 田中正信 (大石田百姓保存会)

日本全国当節はやりの「地域おこし」のイベントなんぞを見ておられますと、実にいろいろなものがございます。大石田町の隣の村山市では「徳内囃子」といまして、ご当地の江戸時代の探検家、最上徳内の遺徳を偲んで、北海道は厚岸町と交流を深めながら「よさこいソーラン」をベースに出来上がったのが「徳内囃子」でございます。町の若い衆がいなせなはっぴ姿で鳴子片手に決めのポーズをとれば、もう観客はもちろん、踊っているご当人も神がかりの陶酔状態。ここまですれば地域おこしも大成功。毎年お盆過ぎにもかかわらず、全国から大勢のお客様が見えるそうです。

おなじ山形でも庄内地方では、映画「おくりびと」に出てきたロケ地に大勢の方が訪れているそうです。上、中、並の棺おけをバックに記念撮影をしていくそうです。ほかにも「武士の一分」「蟬しぐれ」「たそがれ清兵衛」ご存知藤沢周平作品の生まれた庄内海坂藩はいまや映画村というところでしょうか。

さて、私ども百姓保存会の仲間が暮らす大石田町はといえば、ひな祭りに元祖花笠踊り。最近「徳内」に負けじと、「維新組」なんていう元気のいい若い人たちが創作の踊りを披露。それでもわが町はどえいらかという地味。古くは松尾芭蕉、斎藤茂吉等文人墨客が愛でた町。たゆたう最上の流れに「白き山」。これこそわが町大石田の真骨頂というものです。当節のイベントなんぞが追いつけるものではございません。ゆめゆめ「何も無い」などと思ってはなりません。おいでになったらどうか耳を澄まし、静かに深呼吸をしてみてください。 (*) 「大石田百姓保存会」は、安全で美味しい農産物作りを行っている団体です。

「はじめての大石田・駒籠」 武澤和子

4月まだ春浅い山形県大石田町を訪ねました。この日、大石田町では家にあるおひな様(中には旧家らしく江戸時代の享保ひな、元禄ひなが多数あり)を飾り、見学者に見せる「おひな見」をしていました。(この日だけ)京都や江戸の文化が伝えられていた様子が良くわかり、静かな川沿いの町にこんなお宝がゴロゴロと眠っているとは知りませんでした。又、歴史資料館にはガラスの仕切りもなく、手の届きそうな所に大きな享保雛が飾ってあるのには驚きで「うっそー。大丈夫?」と言いたくなるほどのおおらかさでした。

夜は駒籠にある有畜複合の農業を実践している海藤さんのファームイン「でくの坊」に泊まりました。暖かい薪ストーブと静かな時間がほっとするひと時を与えてくれました。明け方ハクチョウが飛んでゆく鳴き声で目を覚まし、朝ごはんのあと陶芸家のブルーノさんのお宅でコーヒーを御馳走になりながら、ふと窓の外の新の山に目をやるとジョウビタキが私にチョンチョンと挨拶してくれる。最上川がゆったり流れているように時間もゆったり流れている、そんな極上のひと時がここ駒籠にはあります。皆さんぜひ一度おいで下さい。



この猫ちゃんは? 農家民宿「でくのぼう」の窓の外から中の様子を見守る猫。海藤さんちの作業小屋で隣家の猫が産んだ子猫がそのままいついてしまったそうです。名前はなくて「ねこ」とか「ちび」とか呼ばれて可愛がられているという大らかさ。

★ブルーノさんの作陶展が東京銀座で開かれます。2009年6月11日(金)～18日(金) 11:00～19:00

会場: ギャラリー 江(こう) 中央区銀座4-13-15 成和銀座ビル2F (歌舞伎座横) TEL 03-3543-0525

大石田を楽しもう倶楽部会報第1号いかがでしたでしょうか。内容を見ておわかりの通り、大石田をまるごと楽しもう! ということで、大石田の楽しみ方をこれからたくさんお伝えしていきます。ひな祭りツアーの報告を読んで「行きたかった～」という方は、秋の「大石田そばまつりツアー(10月予定)」をどうぞお楽しみに! 会報は季刊、次回発行は6月末頃の予定です。会報の名称を募集中です。アイデアを事務局までお寄せください。事務局: 〒112-0012 東京都文京区大塚5-9-2-2F NPO法人あったかキャッチボール内

TEL 03-5976-3040 FAX 03-5976-6234

E-mail attaka@room.ocn.ne.jp

★入会ご希望の方は、事務局にご連絡ください。入会金: 無料 年会費: 1,000円